磐梯山の火山災害予想区域図（大きな噴石・降灰・火砕サージ・融雪型火山泥流の予想区域図）

# マグマ噴火の火山ハザードマップ

●この図はマグマ噴火（噴出量は3000万㎥）が発生した場合のハザードマップです。

## 予想図

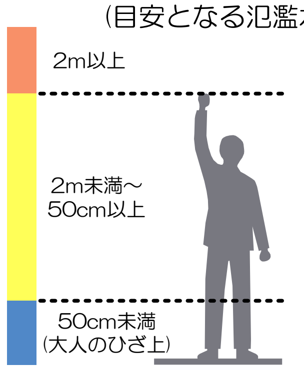
**融雪型火山泥流は以下の条件の時の予想図です。**
- ●雪の多い時期（真冬）
- ●マグマ噴火が発生
- ●12地点で発生した泥流の最大の浸水高

※「火砕サージ」と「融雪型火山泥流」の災害予想区域図は、火砕サージが想定火口範囲の12地点から黒矢印の方向に流れ、融雪型火山泥流が発生した場合の想定範囲を数値計算により算出して全て重ねたものです。１回の噴火で全ての方向に流れ下るわけではありません。
※ 融雪型火山泥流は主に谷筋や沢沿いを一気に流れ下り、平坦部で氾濫することが多い現象です。

●大きな噴石が、火口から4kmの範囲に飛散します。
●降灰の分布は、上空の風向きによって大きく変わります。磐梯山上空の風は年間を通して西風が多く、東側に分布することが多い傾向にあります。
●火砕サージは火口から約6～9kmの範囲に広がります。火口のできる位置によって分布範囲が変わり、火口が北側に出来れば北側、南側に出来れば南側に広がります。
●山に雪がある時に噴火が起きると、火砕サージが到達した範囲の雪が融けて、融雪による火山泥流が発生します。
※磐梯山のマグマ噴火は過去１万年以内に１回だけ発生した低頻度の現象です。

＜凡　例＞
- 想定火口範囲
- 火砕サージの流下方向
- 大きな噴石
- 降灰（西風の場合）※想定火口範囲の中心から噴火した場合
- 降灰（西風以外の場合）※想定火口範囲の縁から噴火した場合
- 火砕サージ

融雪型火山泥流の浸水高（目安となる氾濫水深）




- 県　境
- 市町村境
- 国　道
- 高速道路
- 鉄　道

## 火口別の融雪型火山泥流の予想図

銅沼で噴火した場合

沼ノ平で噴火した場合

南西側で噴火した場合

**火口の位置で融雪型火山泥流の到達範囲が変わります。**

●融雪型火山泥流が流れる場所や泥流の規模は、火口の位置や火砕サージの範囲、山頂付近の雪の量などで変わってきます。

●想定火口範囲の北・東・南で噴火すると、磐梯山周辺、特に長瀬川沿いに広がります。

●想定火口範囲の南西側で噴火すると、会津盆地まで泥流が到達します。

十勝岳（1926年）

融雪型火山泥流の被害の様子

## その他 注意すべき火山現象

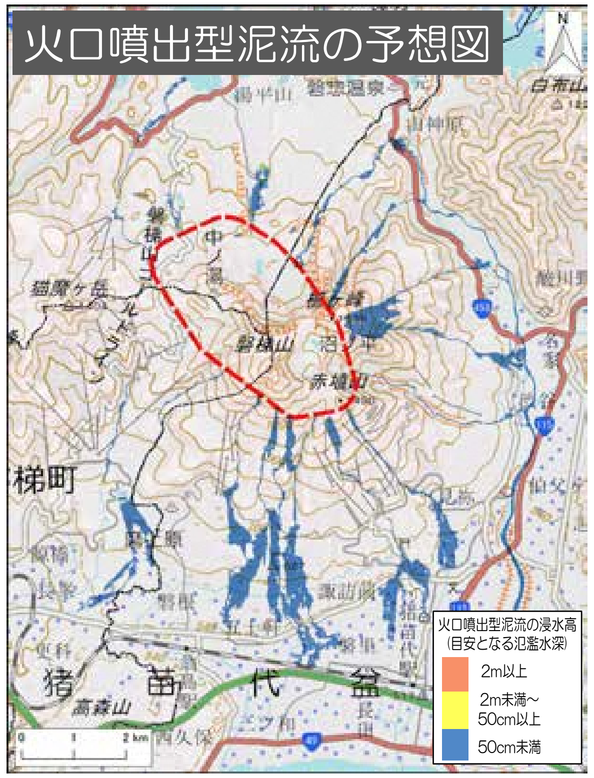
### 火口噴出型泥流

●地下の温泉水などが、噴火に伴って噴き出し、下流まで到達することがあります。

●噴火と同時に発生することが多いのが特徴です。

有珠山2000年噴火で発生した火口噴出型泥流

### 火口噴出型泥流の予想図




### 火山ガスの噴出や地熱活動

●磐梯山では、沼ノ平、銅沼、中ノ湯の周辺で火山ガスが噴出しています。

●火山ガスには硫化水素が含まれているため、付近を歩くときには注意が必要です。

●危険な箇所には看板が設置してあります。看板にしたがって、立ち入らないようにしましょう。

中ノ湯周辺の様子

銅沼周辺の噴気

### 斜面崩壊や山体崩壊

●1888年噴火の崩壊壁は急斜面で岩盤が露出しているため、大雨や地震によって崩壊が発生しています。

●大雨によって発生する崩壊は土石流となって下流まで流れ下ることがあります。

●また、磐梯山は過去１万年間に３回の山体崩壊が発生した実績もあり、大規模に崩れることもあります。

1888年火口壁周辺の崩壊土石の状況